

「地方自治体職員の職務遂行能力形成過程」正誤表 その1

頁	訂正箇所	誤	正
9	上から13行目	目的する	目的とする
10	下から9行目	設定などにおいて	設定などにおいて
13	下から2行目	Table 1.4	Table 1.1
17	Table 1.3の区分Ⅱ「課題の設定」の「内容」	課題について、自らの責任において明確に意志決定し実行することができること。	将来の見通しに基づき、広い視野に立って、課の基本的な課題を明示することができること。
19	上から6行目	構造的にとらる	構造的にとらえる
19	下から6行目	「主査級職員に期待される役割と必要とされる能力」(Table 1.1)	「主査級、課長補佐および課長級職員に期待される役割と必要とされる能力」(Table 1.1～Table 1.3)
21	下から9行目	コミュニティ	コミュニティ
32	上から11行目	0.1%水準以下	0.1%水準未満
34	Table 2.7の表中 上から3行目	協調・判断力	協調・実行力
35	下から5行目	蘭, 1992) であり、	蘭, 1992)」であり、
45	下から7行目	「協調・判断力」	「統制力」
51	上から8行目	吉川 (1988)	吉川 (1980)
58	下から2行目	統制力	「指導・統制力」
60	上から5～7行目	相関係数の内、有意なものとは有意でないものが混在しているが、現有能力と強化能力の尺度名が同一の尺度間の相関係数12の内11までが有意である。	左記箇所をすべて削除
64	Table 4.7の表中 上から8行目	0.05(0.43)	0.15(0.43)
65	Table 4.8の表中 上から9行目～ 下から2行目	t値 <sup>a</sup> 、t値 <sup>b</sup> 、t値 <sup>c</sup> の値の内、 -符号のついたすべての値	すべて正(+)の値
66	上から5行目	p < .01	p < .05
66	上から8行目	「指導・統制力」	「指導・統制力」(p < .05)
71	上から9行目	統制力	「指導・統制力」
72	上から12行目	吉川 (1988)	吉川 (1980)

「地方自治体職員の職務遂行能力形成過程」正誤表 その2

頁	訂正箇所	誤	正
74	最下行	さまざま	さまざまな
78	Table 5.1 表中の項目番号	I II II	I II III
79	Table 5.2 の項目の下から 14 番目	18. 上司は提案を・・持っている	持っている
82	最下行～次頁第 1 行	「上司には課外との意思疎通がまずかったための失敗はない」	左記を削除
83	第 1 行	16 項目	15 項目
85	上から 8 行目	力」上司との関係：	力」、上司との関係：
85	下から 3 行目	自己評価～人間関係	自己評価から人間関係
86	Table 5.5 表下欄外	*p < .01, **p < .001	*p < .05, **p < .01
88	Table 5.7 表下欄外	*p < .01	*p < .05
100	下から 7 行目	部下指導力	部下指導能力
100	下から 5 行目	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
108	上から 2 行目	標準編回帰係数	標準偏回帰係数
108	下から 5 行目	「指導・統率力」	「指導・統制力」
108	下から 4 行目	$\beta = .12$	$\beta = -.12$
109	下から 8 行目	「分析・企画力」	「企画・分析力」
109	下から 4 行目	指導・統制能力	指導・統制力
112	下から 5 行目	「権限委譲」それに	「権限委譲」がそれに
115	下から 14 行目	「統制力」	「指導・統制力」
116	上から 11 行目	「同僚関係」	「職場風土」
117	上から 7 行目	科学的なブローチ	科学的なアプローチ
117	上から 9 行目	「同僚関係」	「職場風土」
123	上から 12 行目	施策をのように	施策をどのように
127	上から 2 行目	オールポート, G.W.	オールポート, G.W.
127	上から 14 行目	ビネ, A.	ビネー, A.
130	下から 10 行目と 11 行目の間		芝 祐順 1981 因子分析法のための会話型プログラム 東京大学教育学部紀要 21, 53-65.